

令和7年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(英語) 教科主任名 小松哲郎

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ	
知識・技能	1年	定期考査の達成率は65%だった。ライティングノートをとおし、英文を書こうとする意欲は見られるが、文法の知識に課題がある生徒もいる。	英文を書く力の定着を図るために、引き続きライティングノートを活用する。また重要表現の知識の定着を図るために、長期休暇明けにはテストを実施する。	1年				
	2年	定期考査の達成度は55.5%だった。1年次に比べると、英単語を書く力が付いてきたが、文法の知識に課題がある生徒もいる。	長期休暇明けには構文テストを実施し、英文法の定着を促す。また単語を書く力の定着を図るために継続的に単語テストを実施する。文法の復習のプリントを授業で配布し、試験範囲の文法の定着を図る。	2年				
	3年	英文の大意を把握し、話の流れに沿って空欄に入る適切な単語・語句の組み合わせを選ぶ問題では正答率に課題があった。	正しい文法知識を確認して整理し、それらを正しく使って英文を組み立てられるようにする力や、既習の語彙や表現などを実際に活用する活動を通して、その定着を図る学習の充実に務める。	3年				
思考・判断・表現	1年	定期考査の達成率は70%だった。聞く力や読解力は少しずつ身についている。既習文法を用いて自ら表現する力に課題がある生徒もいる。	既習表現の復習を定期的に取り入れ、自らの力で表現する力を養うために英作文を書く機会を増やしていく。	1年				
	2年	定期考査の達成度は54.3%だった。長文の読解力は少しずつ身についている。既習文法を生かし自ら表現する力に課題がある生徒もいる。	既習文法の復習を授業内で行い、英作文を書く機会を増やし、自分の考えをまとった内容のある英文を作らせたりする。	2年				
	3年	リスニングに関しては、聞き取った事柄について英語で表現する記述式問題の正答率に課題があつた。	聞いたらり読んだりした英語について、生徒が自分で考えや気持ちを話したり書いたりするなどの複数の領域を統合した言語活動を一層充実させる。	3年				
主体的に学習に取り組む態度	1年	授業内でワークに取り組む時間を設け、復習する習慣づけを行ったが、家庭学習においては不十分な生徒が多い。授業内での発表活動では自信をもって主体的に取り組む姿勢に課題がある生徒もいる。	今後も家庭学習で復習するように授業内で促していく。2学期もパフォーマンステストがあるため、自信をもって発表できるよう練習時間を設けて指導していく。	1年				
	2年	1年次に比べ、家庭学習や課題の提出にも意欲的に取り組むようになってきたが、授業内での発表活動などに主体的に取り組む姿勢に課題がある生徒もある。	定期的にワーク提出をさせ、家庭学習の定着を図る。スピーチなどをする際は練習、準備時間を確保し、活動に取り組ませる。	2年				
	3年	提出物などは前年度に比較し提出率が上がってきているが、授業内発表のための準備が不十分だったり、発表の仕方について努力の余地がある。	英語で発表する際の注意点や心がける点などを再度確認し、より効果的な発表ができるように指導する。発表までの過程・準備を今まで以上に細かく設定する。	3年				